

平成 21 年度環境科学センター研究推進委員会課題評価結果

5 光化学オキシダント高濃度の発生原因の解明

[総合評価とコメント]

- 光化学オキシダントの問題は、永年にわたって種々の環境問題の中で主要な地位を占め続けている。ただし 40 年前に顕在化した当時とはかなり状況が異なってきていることから、従来の知見だけでは説明しきれない状況も発生しており、依然として主要な研究課題となっている。そういう背景の中で、本研究は光化学原因物質の発生源を多く有し、注意報発令も比較的多い神奈川県として、今後もニーズの高いテーマ設定といえる。
研究内容的には、まだ初年度の段階であることから具体的な成果はこれからであるが、今後どのような解析が有効であるか、研究の進捗をみながら検討していただくことを期待したい。

- 光化学オキシダントの発生抑制に努めることは県民の健康保護の観点から重要である。
大気環境は改善傾向にありながら光化学注意報の発令日数が改善しない状況では、光化学オキシダントの発生要因を明らかにし、従来の大気保全対策に加えてどのような対策が必要かを明らかにする必要がある。この研究の成果は、光化学オキシダント生成を抑制するための施策を考える上で貴重な知見を提供するものである。また、それによって光化学注意報の発令日数を減らすことができれば、大気環境が改善されていることを県民に実感してもらう効果も期待できる。
このような観点から、この研究は意義があると認められる。

- 従来の学説の蓄積をよくレビューした上で、仮説を立てて、研究するべきと考えます。

- なかなか難しいテーマだと感じる。まずは解明のための戦略をしっかりと検討することが大事だが、長期的にモニタリングに取り組んでおられる方だからこそ気がつくということがあるだろうし、そのような発見を期待する。

- 0x 高濃度発生の原因を明らかにして、その対策を進めていくことは社会的ニーズが高い研究である。しかし、VOC 実態調査結果が直ちに 0x 高濃度発生の原因解明につながるわけではないと考えられる。
本年度成果をふまえて、次年度は適正な目標の設定が必要と思われる。

- 大気環境の常時監視システムを活用して、その変動要因を解析することは極めて重要である。これまでの一次汚染物質の挙動把握および他都県での実施例を十分に踏まえて深化した解析が期待される。一般的な大気環境の特性を明らかにすると共に、神奈川県固有とも言うべき要因が明らかになればさらに意義が深い。

(数値的評価)

★評価者 6 名

〈評価の内容〉	〈評価項目〉	〈ランク〉					
課題設定の妥当性	○背景と必要性	5 (2人)	4 (3人)	3 (1人)	2 (0人)	1 (0人)	
	○優先性	5 (1人)	4 (3人)	3 (2人)	2 (0人)	1 (0人)	
計画の立案と実施方法	○研究内容	5 (1人)	4 (4人)	3 (1人)	2 (0人)	1 (0人)	
	○計画の妥当性	5 (0人)	4 (3人)	3 (3人)	2 (0人)	1 (0人)	
研究の進捗状況	○進捗状況	5 (0人)	4 (1人)	3 (5人)	2 (0人)	1 (0人)	

※ランクは、5点満点の評価で5 (優) ~ 1 (劣)